



# ほしぐみだより

令和6年11月1日(金)  
尚徳福祉会 井荻保育園

ますます深まる秋を感じながら、自然との触れ合いを楽しんでいる子どもたち。  
園庭遊びでは異なる色の葉を見つけたり虫を見つけては保育者に「いたよ」と教えてくれます。  
散歩の機会も増やし、秋の自然を見たり感じたりしながら手をつないで歩く練習を頑張っています。

## 実際どうしているの？ほし組の子どもたちと保育者との関わり

汚れもの袋を掛けるフックの側に提示されてある指導計画書をご覧になったことはありますか。  
月ごとに子どもたちにどのような経験をしてほしいかどのように育てて欲しいかが記載されています。  
今回は10月の指導案保育者の援助及び配慮をもとに例を3つあげて紹介したいと思います。

### ケース1

自分で食べようとする意欲を認め、苦手なものでも食べてみようという気持ちを持てるよう言葉かけを工夫する。  
⇒お野菜を食べているお友だちに「〇〇くん、人参食べられたね！」と拍手したり、親しみのある保育者にご飯を食べている姿をみてもらい「大きなお口で食べられたね！」と姿を認めたりしています。声を掛けられた子どもはもちろんそばで聞いていたお友だちも「私もできる」と言わんばかりの表情で食べています。

### ケース2

友達に興味を持てるよう歌や様子を知らせたりする。⇒「どーこだどこだ〇〇ちゃんはどこだ」と保育者が声をかけると聞いた子どもたちはここ！とお友達を指差したり、「いとまきまき」「こんこんくしゃんのうた」誕生日の歌で替え歌にして遊ぶときもあります。お友達との関わりが増えるよう、「同じおもちゃで遊んでいるね」「一緒だね！」と声をかけてみると子どもたちは照れ臭そうな表情で笑っています。

### ケース3

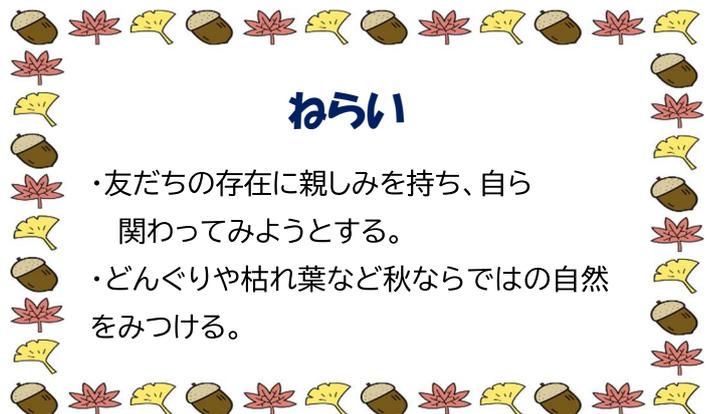
遊びがなかなか見つからない子がいたら保育者が一緒になって遊びながらいろいろな遊びを提案してみる。  
⇒一緒に遊ぼうよと声をかけ手を引く関わりもひとつの手ですが、子どもたちには“自分で”遊びを見つけたり探してほしいのでさりげなく関わるようにしています。たとえば子どものそばに来て保育者がじっくり遊んでいる姿をみてもらう。声をかけず楽しんだり集中している姿を見ると自分もやってみようかな？と興味を示します。子どもが集中し遊び始めたり友だちとの関わりを楽しみ始めたらさりげなく離れ、トラブルが無さそうな時は遠くから見守っています。

このように一か月ごとに個人だけでなくクラスの雰囲気を見て考え、大人はなるべく共通した声かけや活動の流れを共有しています。11月中旬から行われる保育参観でぜひチェックしてみてください。

## おねがい

これから寒くなってきますが**長袖の肌着は着用しないようお願いします。**身体を動かす遊びをしたり、保育園で室温度を調整しますので半袖の肌着の用意をお願いします。  
また自分で着脱ができるように次回買い替える時は**セパレート**の肌着をお願いします。

## ねらい



- ・友だちの存在に親しみを持ち、自ら関わってみようとする。
- ・どんぐりや枯れ葉など秋ならではの自然をみつける。